

吸実性カメムシ情報第1号（ダイズ）

平成21年9月29日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生状況

9月下旬の巡回調査の結果、ミナミアオカメムシ（図1）やアオクサカメムシなどの吸実性カメムシ類の100株あたりの寄生虫数は13.7頭（平年0.7頭）となり、平年を大きく上回り、過去10年で最も多くなっています（図2）。特に、昨年新たに発生を確認したミナミアオカメムシが、本年8月時点で県内16市町のほ場で確認されており、生息域が急速に拡大しています。また、9月25日発表の1か月予報では、気温が高い確率が50%と予想されており、今後の発生に好適な条件が続くと思われるため警戒が必要です。



図1 ミナミアオカメムシ成虫

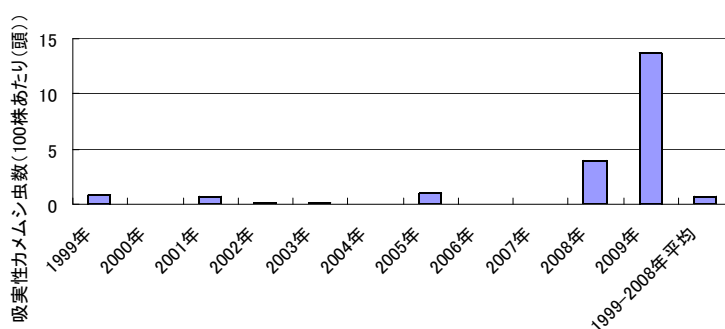


図2 ダイズにおける吸実性カメムシの発生量

2 防除対策

水稻収穫後、隣接したダイズほ場への飛来が懸念されるので、ほ場をこまめに見回り、ほ場内で吸実性カメムシ類を確認したら、下表を参考に、登録薬剤による防除を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に再度防除を実施してください。特に、幼莢期から子実肥大期において加害が激しいので、この時期に防除の重点をおきましょう。

ミナミアオカメムシの防除に際しては、ネオニコチノイド系の薬剤、有機リン系の薬剤が有効とされていることから、ほ場でミナミアオカメムシの発生を確認した場合は、これらの薬剤を用いて防除しましょう。

表 ダイズにおけるカメムシ類に登録のある主な薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	収穫前日数	使用回数	系統
スミチオン乳剤	1,000倍	21日前まで	4回以内	有機リン
スタークル顆粒水溶剤/ アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	2回以内	ネオニコチノイド
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	7日前まで	3回以内	ネオニコチノイド

3 その他

ミナミアオカメムシは32科145種の植物に寄生・加害することが知られており、愛知県では、水稻、ムギ、トマト、オクラ、キャベツ等で寄生を確認しています。

ミナミアオカメムシの生態などについては、8月17日発表の「知ってとくとくミナミアオカメムシの生態と防除」を参照してください。

ホームページアドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>